

(3) 個別・集団感染について当時の感染状況の把握と、感染判明後の対応について

1) 血友病患者のC型肝炎感染状況の把握とその分析

i) 厚生省による状況把握実態

血友病患者のC型肝炎感染状況については、1989(H1)年の「平成元年度 HIV 感染者発症予防・治療に関する研究班研究報告書」(主任研究者 山田兼雄)、および 1990(H2)年の「平成2年度 HIV 感染者発症予防・治療に関する研究班研究報告書」(同上)において厚生省に対し報告されている。

各報告書に記載されている血友病患者のC型肝炎感染状況は以下の通りである。

図表 3-70 平成元年度 HIV 感染者発症予防・治療に関する研究班研究報告書の概要

症例	C型肝炎感染状況
血友病 A : 137 例 血友病 B : 20 例 フォンウイレブランド病 : 15 例 第Ⅷ因子欠乏症 : 1 例 計 209 例	149 例 (71.3%) が抗 HCV 抗体陽性
加熱処理またはその他のウイルス不活性化処理製剤のみを用いて、それ以前のウイルス不活性化未処理製剤を用いていないバージンケース 血友病 A : 14 例 血友病 B : 1 例 計 15 例	血友病 A の 4 例(28.6%)が抗 HCV 抗体陽性 (詳細) ・血友病 A の治療製剤であるモノクローナル抗体/Triton x-100 処理のヘモフィルならびに液状加熱処理のヘマーテ P 単独使用例では、抗 HCV 抗体陽性例は見られない。 ・血友病 B の治療製剤である PPSB HT、クリスマシン HT 使用例でも抗 HCV 抗体陽性は見られない。

図表 3-71 平成2年度 HIV 感染者発症予防・治療に関する研究班研究報告書の概要

症例	C型肝炎感染状況
1985(S60)~1989(H1)年の HIV 感染症例 ・ CDC 分類Ⅳ群 : AIDS 3 例 ・ 同Ⅲ群 : ARC 1 例 ・ 同Ⅱ群 : キャリア 4 例 計 8 例	8 例(100.0%)が C型肝炎抗体陽性
同時期に輸血を頻回に受けた下記症例 ・ 再生不良性貧血 3 例 ・ 急性白血病 6 例 ・ 突発性血小板減少性紫斑病 (ITP) 1 例 ・ OKT4 欠損症 1 例 計 11 例	36~64%が C型肝炎抗体陽性 ・ 再生不良性貧血 : 陰性 1、陽性 1、seroconversion1 ・ 急性白血病 : 陰性 2、陽性 2、seroconversion2 ・ ITP : 陽性 1 ・ OKT4 欠損症 : 陰性 1

これにより、厚生省は、遅くとも 1989(H1)年には、血友病患者のC型肝炎感染状況を把握していたものと考えられる。